

ちよつとしい話

～ 風 林 火 山 ～

武田信玄の風林火山は有名ですが此の度は私なりの解釈をしてみたいと思います。風林火山事態は孫子の言葉です「疾はやきこと風の如し、徐しずかなること林の如し、侵掠しんりやくすること火の如し、動うごかざること山の如し。」疾風しつふうで思い出すのはシバ神の子、韋駄天いだてんさんです。

韋駄天さんはヒンズー教では悪魔を打ち破る軍神でしたが、仏教では寺院がらんの伽藍を守る神様です。韋駄天が走り来て悪魔から修行僧を救った事から足の速い神様のイメージが出来てしまいました。

徐しずかなることで思いますのはやはり寂滅じゃくめつでしょう。寂滅めつ為樂らく。香かを焚たきき心こころ静しずかに煩惱ぼんのうも消え、まさに究極の悟りをえた状態を指しましょう。火かはまさに全ての物を焼き尽くし消失させてしまいます。清きよき物も不よ浄じよの物も消失させます。そして世間様にも多大なる迷惑を掛ける事になります。ですから火に対しては昔から特別な思いがあり大切なものとして扱われて来ました。現在でも竈かまどに秋葉神社の御札みづかがお祀りしてある家たくさんが沢山あります。御神体みのかみは火之迦具土の神です。動うごかざることはまさしく不動であり、不動の山、頭に浮かぶのはお不動さんこと不動明王様です。不動明王様はインドでは山岳神でもあります。日本では密教の到来と共に広がり、不動信仰は大日如来様の使者として現在でも広く浸透致しております。山には大いなる力が感じられ、山は昔から山岳信仰のシンボルでありました。この近くでは白山、御岳山等があり、現在でも御岳教団があります。仏教寺院もまた山岳に居を構えておりました。高野山、比叡山等です。静寂のなかに道を求め来たのが一つの原因でしょう。今でも仏教の根本道場ねんねんぼんじょうかいじょうこうとして栄えております。以上が私なりの風林火山でございます。念ねん念ねん焚たき焼しょう戒がい定じやう香かう

善入院油掛地藏尊